アレルギー除去食に関する連絡書（主治医意見書）－愛媛版2016

名　前　　さん（男、女）　　平成・令和　　年　　月　　日生
診断名　　1　食物アレルギー　　2　　3
本児は診察、検査の結果、以下の食物について除去が必要と考えられます。

1．除去が必要な食品名、および調理と食事の際の注意点は以下の通りです。
　□ 鶏卵　□ 牛乳　□ 小麦　□ 大豆　□ ピーナッツ　□ ナッツ類　□ ゴマ
　□ 甲殻類・軟体類　□ 魚　□ 肉　□果物　□ 魚卵　□ 山芋　□ ソバ　□
　＊詳細は2頁目の除去食物指導表を参照してください。
　微量のアレルゲン混入を防ぐため専用の調理器具の使用が□必要　□一般的対応で可
　誤食を防ぐため充分な観察と注意の中で食べさせることが　□必要　□一般的対応で可
　定期的内服薬の有無　□有（　　）□無
2．食物アレルギーと診断した方法は次の通りです。
　□問診・視診、□食物日誌、□食物除去・負荷試験の反応、□皮膚テスト、
　□血液検査（IgE, RAST, HRT等）、□その他：
3．摂取した場合に出現する可能性のある症状 は次の通りです。

食品名	1	2	3	4	5	6	7	8	
□鶏卵	□	□	□	□	□	□	□	□	□未摂取　□その他(　　)
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□未摂取　□その他(　　)
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□未摂取　□その他(　　)
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□未摂取　□その他(　　)
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□未摂取　□その他(　　)

　出現しうる症状　1 ショック　2 咳き込み・呼吸困難　3 嘔吐・腹痛　4 全身蕁麻疹
　　5 赤み・かゆみ　6 下痢　7 口腔内症状　8 湿疹の悪化
4．原因食品摂取時には、保護者に至急連絡し指示を受けて下さい。
　□ 緊急の場合には以下の対応が必要です　□ 緊急の対応が必要となる可能性は少ない
　□ 内服薬（
　□ 医療機関連絡・受診：□当院□ 救急病院　□その他（　　）
　□ 自己注射（エピペン0.15mg・0.3mg
　＊緊急の事態に保護者に連絡がとれない場合、園・学校から主治医に連絡し指示を
　　受けることに 保護者が 同意を　□している　□していない　□不明
5．本連絡書（意見書）の内容については、下記の期間をおいて再評価が必要です。
　□1ヶ月後　□3ヶ月後　□6ヶ月後　□1年後　□（　　）年後
6．その他の連絡事項

令和　　年　　月　　日
住　　所
医療機関
電話番号
医　　師

患者名：　　さん　　令和　　年　　月　　日記入

除去食品指導表

食物アレルギーのため**除去の必要な食品**は、□にチェックを入れます。

鶏卵アレルギー
□ 生卵・生メレンゲを使ったお菓子 生卵入りの生クリーム・アイスクリームなど
□ 半熟卵を含む料理や菓子 親子どんぶり・かき玉汁・卵とじ カスタードクリーム・マヨネーズなど
□ 加熱卵白を相当量含む料理や菓子 卵焼き・茶碗蒸し・ゆで卵・薄焼き卵 プリン・カステラ・ケーキ・菓子パンなど
□ 加熱卵白を中等量含む菓子 ドーナツ・卵ボーロ・クッキー・ビスケット
□ つなぎに卵白を少量含む製品 練り製品・ハム・ソーセージ・ベーコン
□ 加熱した卵を微量含む 食パン・天ぷら粉・麺類など
□ 固ゆで卵の卵黄

牛乳アレルギー
□ 牛乳・粉ミルク・フルーツ牛乳 □ 生の牛乳を用いた食品 アイスクリーム・生クリーム
□ チーズ □ 加熱牛乳、ヨーグルト □ 牛乳を加熱して使った料理 プリン、ホワイトソース
□ 乳酸菌飲料 □ 牛乳を含むパン ・ 焼き菓子
□ バターのみを含むパン・焼き菓子 □ バター、マーガリンを使った料理
※ 分かっている場合、 牛乳換算（　　ml）まで
※ アレルギー用ミルクを使用している場合 ミルク名（　　）

小麦アレルギー
□ 小麦粉を主体とした製品 うどん、スパゲッティー・パスタ類 麩（ふ）、パン類
□ カレー・シチュなどのルー
□ 肉・練り製品のつなぎ
□ オートミール・麦茶
□ 小麦入り醤油、味噌など

大豆アレルギー
□ 豆乳　□大豆　□きなこ □ 枝豆　□おから
□ 納豆　□ 豆腐 □ 大豆もやし
□ 大豆入り味噌や醤油
□ 大豆油を使った料理や菓子

□ ピーナッツ　□ ナッツ全般（□ アーモンド　□ クルミ　□ カシューナッツ　□

甲殻類・軟体類　□ 全般　□ エビ　□ カニ　□ イカ　□ タコ　□ 貝類　□

魚　□ 全般　右の魚のみ不可　□　□　□

肉類　□ 鶏肉　□ 牛肉　□ 豚肉　□

果物　□ キウイ　□ バナナ　□ リンゴ　□ モモ　□　□

魚卵　□全般　（□ イクラ　□　□　）

その他　□ 山芋　□ ソバ　□ ゴマ　□　□

愛媛県医師会・愛媛県小児科医会作成　2016